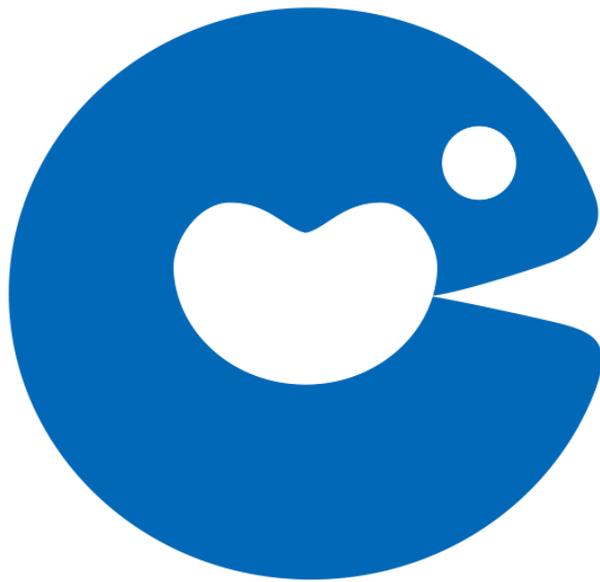


2024(令和6)年度

# 板橋区環境白書



ゼロカーボン  
いたばし2050

2025(令和7)年3月



## 「エコポリス板橋」環境都市宣言

豊かな自然 澄んだ空気 静かでやすらぎのある暮らしは 私たちすべての区民の願いです

板橋区には みどりと水の豊かな自然やいきいきとしたまちなみなど 誇れる環境が残されています

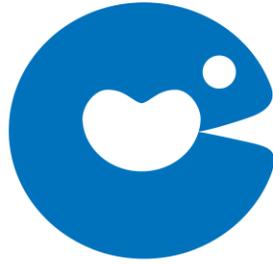
しかし 近年の盛んな都市活動は かつての良好な環境を徐々に失わせ さらに地球環境をも悪化させています

環境にやさしい暮らし方や事業活動を進めながら かけがえのない地球環境を子孫に引き継いでいくことが 私たちに課せられた責務です

私たち板橋区民は 真に快適な環境を創造するために 人と環境が共生する都市「エコポリス板橋」の実現を目指していくことをここに宣言します

- 1 私たちは 毎日の生活が地球環境に影響を及ぼしていることを認識し 地球市民として行動します
- 2 私たちは リサイクルの推進やエネルギーの節約に努め 地球の資源を大切にします
- 3 私たちは みどりや水 空気を大切に守り 様々な生物が共に生きていける環境づくりに努めます

平成五年四月一日



## ゼロカーボン いたばし2050

Eat Carbon up to ZERO

近年、世界中で地球温暖化による異常気象が発生し、日本においても、これまで経験したことのない集中豪雨や強大化した台風などにより、甚大な被害が発生しています。このまま地球温暖化が進むと、その影響は様々な場面で顕在化し、ますます深刻化していくことが科学的に示されており、世界は今、気候非常事態に直面しています。

板橋区は、人と緑を未来へつなぐスマートシティを推進し、持続可能な社会を構築するため、気候非常事態を宣言し、あらゆる主体と連携・協働して社会全体の自主的な行動変容を促すとともに、エコロジー、エネルギー、エコノミーが調和した取組により、2050年に二酸化炭素排出量実質ゼロをめざすことをここに表明します。

- 1 エネルギーの効率的な利用をすすめ、再生可能エネルギーを最大限活用するまちづくりに貢献します。
- 2 環境配慮型製品やサービスの普及に努め、限りある資源の循環的な利用をすすめます。
- 3 持続可能な森林の整備と適正に管理された森林資源の活用を推進するとともに、緑と調和したまちづくりに取り組みます。
- 4 スマートインフラやデジタルトランスフォーメーションを積極的に活用し、地球環境を考えた持続可能な活動を実践します。
- 5 区民・事業者をはじめとしたオール板橋の協働により、気候変動の影響による被害を防止・軽減し、安心・安全な社会の構築に貢献します。

令和4年1月26日 板橋区長

坂本 健

# はじめに

これまで大気をはじめとした環境汚染などにより地球環境、そして板橋区の環境は悪化してきました。この状況に対して、区民・事業者・区が連携・協働して地域の環境改善に取り組み、成果を挙げてきました。

近年では、地球温暖化の影響による気候災害の激甚化、海洋プラスチックごみ問題や生物多様性の損失など、環境問題はますます多岐にわたり、かつ深刻化してきています。

こうした中、我が国は、2020年10月に、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにし、脱炭素社会の実現をめざす「2050年カーボンニュートラル」を宣言しました。

板橋区においても、2022年1月に、地球温暖化への強い危機感のもと、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティいたばし2050」を表明し、実現に向けた取組を進めています。また、2024年4月から、可燃ごみとして回収していたプラスチックを資源として回収する取組を始めました。一方、世界気象機関（WHO）によると、地球全体の年平均気温は1970年代以降上昇を続け、2024年は2023年に引き続き、過去最高を更新しました。工業化以前からの気温上昇は1.5℃を上回り、気候変動に対して危機感をもっていく必要があります。

このような地球温暖化などの差し迫った環境問題に対し、私たち、区民・事業者・区は、引き続き一人ひとりが「自分事」として捉え、課題解決に向けて取り組むことが重要となっています。そのためには、これまで以上に私たち一人ひとりが環境問題に関心を寄せ、対応策について学びを深め、家庭や職場など様々な場面において、環境への負荷を減らす取組を実行するとともに、区民・事業者・区が連携・協働し、環境への取組を進めていくことが大切です。

これまでも区民・事業者の皆様のご協力により、環境美化活動や環境保全活動など様々な活動が行われ、区内の環境改善に大きな成果をあげてきました。この環境白書は、板橋区の環境の現状と環境保全に関する施策の成果を報告する環境報告書です。併せて、区民の皆様とのパートナーシップの形成や区民一人ひとりの環境行動が推進されるような情報提供を目的にしています。

今後、より良い環境白書にするため、ご意見・ご要望等がございましたら、ぜひお寄せいただきますようお願いいたします。

最後に区民の皆様には、板橋区の環境への取組に対しまして、一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2025（令和7）年3月

板橋区資源環境部

# 目 次

## 第1部 環境基本計画の推進

- 1 「板橋区環境基本計画 2025」について . . . . . 1
- 2 計画の推進と進行管理 . . . . . 3
- 3 板橋区の環境とSDGs . . . . . 10

## 第2部 環境保全の取組

### 基本目標1 脱炭素社会の実現

- 1 板橋区の現状 . . . . . 12
- 2 環境施策の活動状況
  - (1) 区民・事業者における省エネ・再エネの推進 . . . . . 13
    - いたばし環境アクションポイント事業 . . . . . 13
    - 緑のカーテンの普及 . . . . . 14
    - 板橋区環境マネジメントシステム . . . . . 15
    - 企業の環境マネジメントシステム構築・維持支援 . . . . . 18
    - 環境に配慮した商店街への支援 . . . . . 19
  - (2) 建物や交通などインフラの脱炭素化の推進 . . . . . 20
    - 本庁舎及び区施設への再生可能エネルギー100%電力の導入 . . . 20
    - 板橋区建築物等における省エネルギー・環境配慮に関する指針 . . 20
    - LED 街灯 . . . . . 21
    - 板橋区の自動車公害対策 . . . . . 21
    - 自転車通行空間整備事業 . . . . . 22
- 3 関連計画・事業
  - 板橋区地球温暖化対策実行計画 . . . . . 23
  - 他自治体・海外とのパートナーシップ (ICLEI) . . . . . 24
  - 区におけるスマートシティへの取組 . . . . . 24

### 基本目標2 循環型社会の実現

- 1 板橋区の現状 . . . . . 27
- 2 環境施策の活動状況
  - (1) 板橋かたつむり運動の推進 . . . . . 28
    - 板橋かたつむり運動 . . . . . 28
    - 区民・事業者とのパートナーシップ . . . . . 29
    - 発生抑制 . . . . . 29
    - リサイクルプラザ . . . . . 30
  - (2) 適正で効率的なごみ収集・処理体制の構築・運用 . . . . . 31
    - 清掃リサイクル事業の運営 . . . . . 31
    - ごみ出しルールの徹底 . . . . . 31
    - ごみ収集 . . . . . 32
    - 資源回収 . . . . . 34
    - ごみの処理 . . . . . 35
    - 区民・事業者主体のリサイクル . . . . . 36
- 3 関連計画
  - 一般廃棄物処理基本計画 . . . . . 37

### 基本目標3 自然環境と生物多様性の保全

- 1 板橋区の現状 . . . . . 39
- 2 環境施策の活動状況
  - (1) 板橋区らしい良好な緑や水環境の保全・創出 . . . . . 41
    - 貴重な緑の保全 . . . . . 41

緑化指導による緑化	42
公園	43
水環境の保全と活用	44
水質汚濁・湧水保全	46
自然との共生	47
(2) 自然とのふれあい促進や自然の恵みの享受	49
緑を楽しむライフスタイル	49
農地の保全	49
熱帯環境植物館	50
自然・いきものアルバム事業（区民参加による自然探索事業）	51
エコポリスセンターかんきょう観察員	51

#### 基本目標4 快適で健康に暮らせる生活環境の実現

1 板橋区の現状	52
2 環境施策の活動状況	
(1) 大気汚染や騒音などのない生活環境の保全	53
大気環境の保全	53
アスベスト対策	56
放射線対策	57
騒音・振動対策	58
悪臭対策	62
土壌汚染対策	63
PCB 対策	63
有害化学物質対策	64
公害の未然防止	65
公害相談・苦情	68
環境調査に関する情報の発信	71
(2) 潤いのある景観や美しい街並みの保全	72
良好な都市景観	72
環境美化活動	73

#### 基本目標5 「環境力」の高い人材の育成

1 板橋区の現状	75
2 環境施策の活動状況	
(1) 環境教育の推進、環境保全活動を担う人材の育成	77
エコポリスセンター	77
学校における環境教育	78
(2) わかりやすい環境情報の発信	81
環境情報の発信	81
環境イベントの開催	81
3 関連計画	
板橋区環境教育推進プラン 2025	82

#### 基本目標6 パートナーシップが支えるまちの実現

1 板橋区の現状	83
2 環境施策の活動状況	
(1) 環境保全活動への参加や協働を進める仕組みづくり	85
エコポリス板橋クリーン条例	85
エコポリス板橋環境行動会議	86
エコポリス板橋環境活動大賞	86
区民団体における取組	87

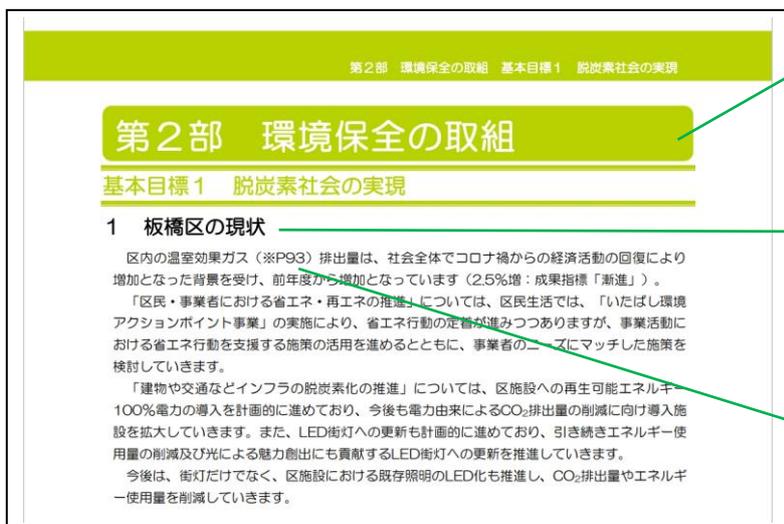
参考資料

- 1 板橋区の概況・年表 . . . . . 88
- 2 用語解説 . . . . . 93
- 3 板橋区環境基本計画の変遷 . . . . . 97
- テレフォンガイド . . . . . 98
- ご意見・ご要望をお寄せください（板橋区環境白書アンケート） . . . . . 100

《板橋区環境白書の役割》

板橋区では、環境基本計画（第一次）が策定された 1999（平成 11）年度より、板橋区の環境全般についてまとめた「板橋区環境白書」を発行しています。環境白書では、環境基本計画に基づいて取り組まれた環境施策の進捗状況や区の環境の現状などを、計画の構成に沿って公表しています。

●本書第2部以降の構成●



第2部では、環境基本計画の基本目標ごとに、「1 板橋区の現状」と「2 環境施策の活動状況」を紹介します。

「1 板橋区の現状」では、活動指標や参考データを踏まえて、基本目標に対する板橋区の全体像について紹介します。

（※POO）は、巻末の用語解説に掲載しています。  
（関連 POO）は、本書内で関連するページとなります。



「2 環境施策の活動状況」では、各環境施策の取組概要を基本計画に沿って紹介します。

各環境施策の活動指標に関連する SDGs アイコンを掲載しています。



各環境施策に関連のある活動指標を、P6～P7に掲載されている一覧表から抜粋して掲載しています。

各環境施策に関連のあるホームページアドレスを掲載しリンクを貼っています。詳細や最新情報はリンク先ホームページでご確認ください。

# 第1部 環境基本計画の推進

## 1 「板橋区環境基本計画」2025について

2009（平成21）年3月に策定した板橋区環境基本計画（※P93）（第二次計画）以降、東日本大震災に伴うエネルギー需給のひっ迫による省エネルギーへの取組や再生可能エネルギー導入の加速化、人口減少社会への移行など、行政を取り巻く環境が大きく変化してきました。さらに、水素エネルギーの活用など新技術の発展、国際社会における新しい地球温暖化対策の枠組みへの合意など、状況は刻々と変化し続けています。

第二次計画の期間満了（2015（平成27）年度）にあたり、このような状況変化への対

応を図り、板橋区における環境保全の取組をより効果的に進めていくため、2016（平成28）～2025（令和7）年度を計画期間とする新たな環境基本計画として、「板橋区環境基本計画2025」を2016（平成28）年3月に策定しました。

本計画は“環境像”＝概ね10年後のめざすべき環境の姿（図1-1-1）を設定するとともに、環境像のもと、個別分野ごとの環境課題に対応した6つの基本目標を設定しています（図1-1-2）。

### 人と緑を未来へつなぐスマートシティ“エコポリス板橋”

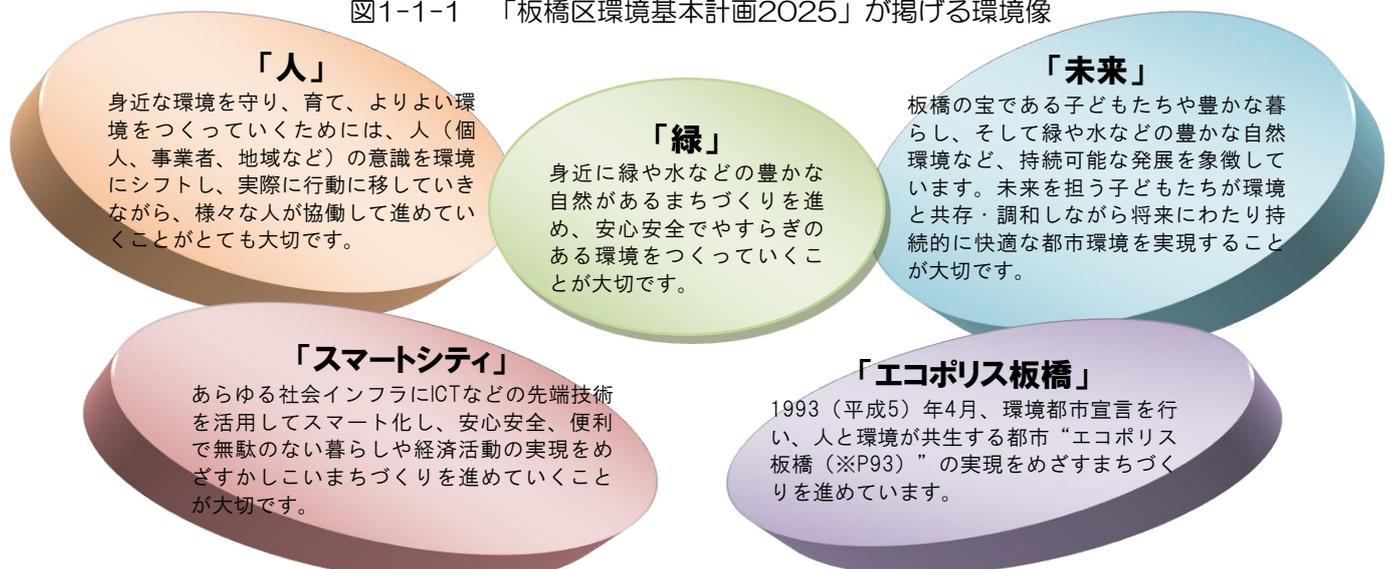
#### 区の環境の将来像＝10年後の姿

武蔵野の面影を残す徳丸・赤塚の樹林地、広大な河川敷を有する荒川や美しい桜並木に彩られる石神井川など、緑と水やきれいな空気に囲まれ、生物の多様性が保全されるなど、自然環境との共生が進んでいます。

またスマートシティに向けてICT（情報通信技術）（※P95）など最先端の技術が整備され、エネルギーを効率的に生みだし使用するライフスタイルが定着するとともに、水素や再生可能エネルギーなどの有効な資源の活用が進み、環境や防災面で持続可能な脱炭素社会※を実現するまちづくりが進んでいます。

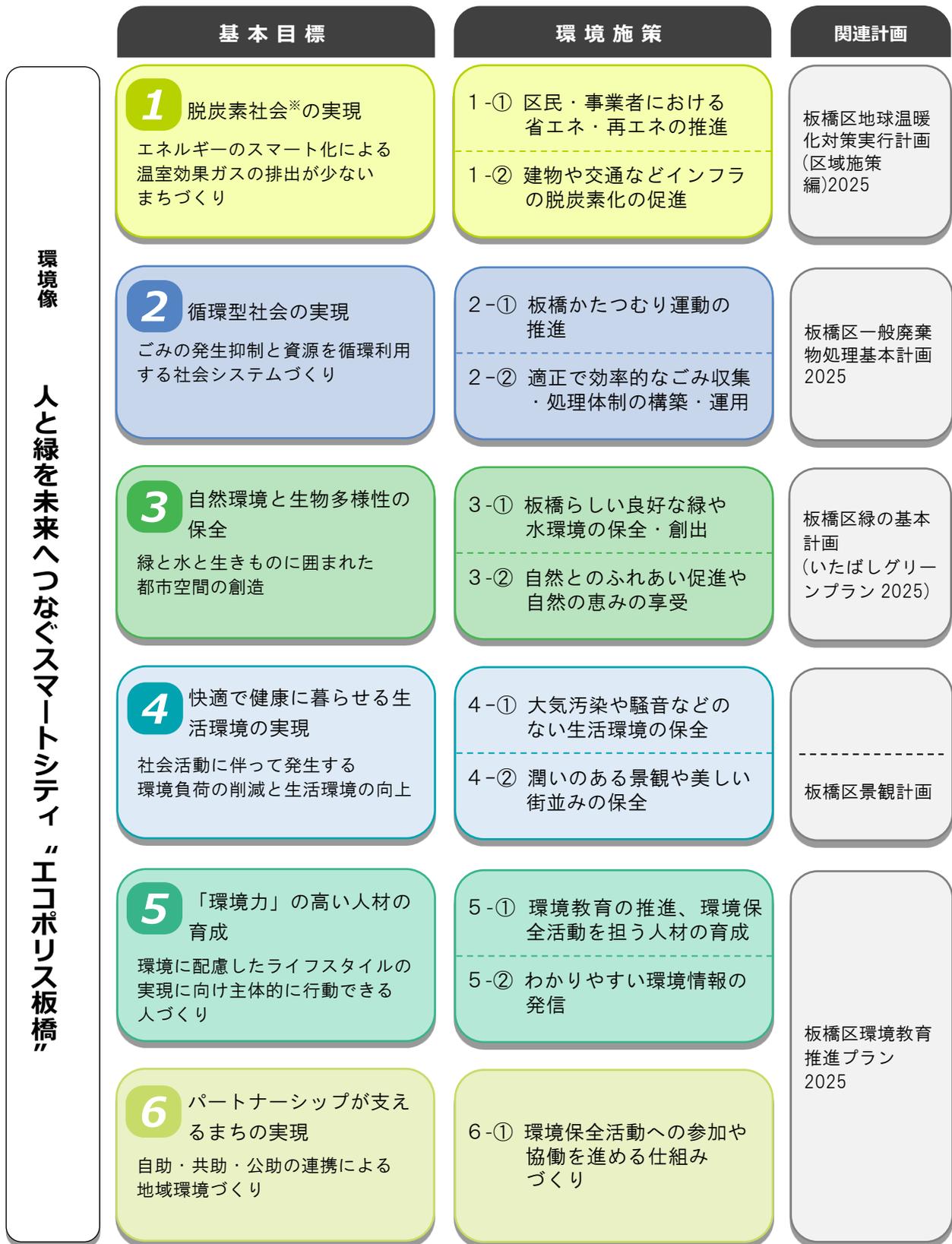
さらには、区民一人ひとりや事業所のごみ減量・リサイクルなど環境に対する意識が高く、世代や職業、地域の枠を越えて、地域全体が連携して活動が進み、資源循環型社会が実現しています。

図1-1-1 「板橋区環境基本計画2025」が掲げる環境像



※ 「板橋区基本計画2025」のアクションプログラムである「いたばしNo1実現プラン2025」の策定により、施策名における「低炭素社会」は「脱炭素社会（※P94）」へと変更されたことに伴い、「低炭素社会」は「脱炭素社会」と読み替えることとします。

図1-1-2 「板橋区環境基本計画2025」の体系



※ 出典：板橋区環境基本計画2025（2016（平成28）年3月策定）

※ 環境基本計画2025策定当時の基本目標1は「低炭素社会の実現」ですが、「板橋区基本計画2025」のアクションプログラムである「いたばしNo1実現プラン2025」の策定により、施策名における「低炭素社会」は「脱炭素社会」へと変更されたことに伴い、本白書では「低炭素」は「脱炭素」と読み替えることとします。

## 2 計画の推進と進行管理

### (1) 進行管理の体制

「板橋区環境基本計画2025」（以下「現行計画」といいます。）を実効性のあるものとしていくため、計画の進行管理を行います。

計画の進行管理は、学識経験者などで構成された区の付属機関である「板橋区資源環境審議会」及び区内検討組織である「『エコポリス板橋』推進本部」により行います。また、環境保全活動に関する区民や事業者への普及啓発や区との連絡調整のため、区民や事業者などによる「エコポリス板橋環境行動会議」と連携しながら計画を推進していきます。

進行管理の体制と各組織の役割は以下のとおりです（図1-1-3）。

### (2) 現行計画の進行管理

計画の進行管理を適切に行うためには、計画の達成度を評価するための指標の設定が重要となります。

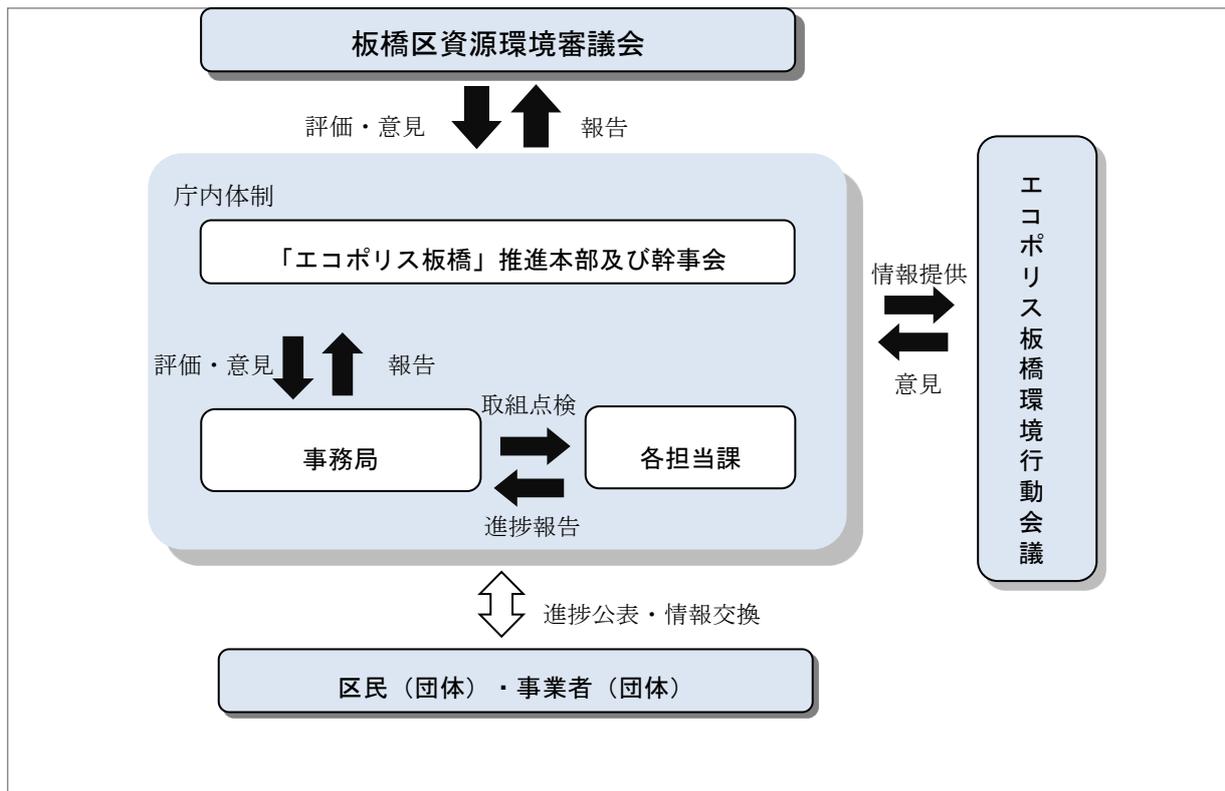
現行計画では、主に6つの基本目標に対す

る達成状況を評価する「環境指標」と、環境施策の活動状況を把握する「活動指標」の2種類を設定しています。

環境指標は、環境保全に資する取組を実施した結果、区民などにもたらされた影響を数値化したもので、原則としてアウトカム指標（成果指標）を用いています。一方、活動指標は、取組の具体的な活動量（「何をどの程度提供したか」など）を定量的に示したもので、原則としてアウトプット指標（活動指標）を用いています。

また、どちらの指標にも、その数値の増減が良い方向に向かっているのか、又は悪い方向に向かっているのかを判断する基準として「めざす方向性」を示しています。（数値の増減で良し悪しを評価することができないものについては「－」で示しています。）現行計画では、これらの指標の数値変化などをもとにして進行管理を行っていきます。

図1-1-3 現行計画の進行管理体制



① 「環境指標」による進捗管理

2024（令和5）年度における環境指標の実績と進捗状況は以下のとおりです。なお、「進捗度」については、基準年値と比較して実績値がこのままのペースで推移した場合に進捗率が100%以上になるものを「順調」、

基準年値と比較して改善はしているものの、このままのペースで推移した場合に100%に届かないものを「漸進」、基準年値と比較して0%以下になるものを「停滞」としました。

指標名	基準年値 平成26年度	めざす 方向性	目標値 令和7年度	実績値 令和4年度	実績値 令和5年度	進捗率	進捗度 ※10
<b>基本目標1：脱炭素社会の実現</b>							
区内エネルギー消費量※1 (熱量換算)	—	—	—	20,194TJ※4	20,545 TJ※5	—	—
区内温室効果ガス排出量	2,318kt-CO <sub>2</sub> ※2	↘	1,623kt-CO <sub>2</sub> ※3	1,909kt-CO <sub>2</sub> ※4	1,955kt-CO <sub>2</sub> ※5	52.2%	漸進
<b>基本目標2：循環型社会の実現</b>							
区民一人当たりの一日の ごみ排出量	689 g※6	↘	598 g※7	622 g	598 g	100%	順調
リサイクル率	21.5 %※6	↗	28.0 %※7	22.0 %	21.8 %	4.6 %	漸進
<b>基本目標3：自然環境と生物多様性の保全</b>							
区全体の植生被覆率	18.3 %	↗	21 %	—※8	—※8	—	—
公園率	5.9 %	↗	6.1 %	5.9 %	5.9 %	0%	停滞
石神井川における生物化学的 酸素要求量 (BOD75%値)	0.7 mg/L	—	1.0 mg/L以下	0.9mg/L	1.3 mg/L	50%	停滞
白子川における生物化学的酸 素要求量 (BOD75%値)	3.8 mg/L	↘	2.0 mg/L以下	2.7mg/L	2.2 mg/L	88.9%	順調
<b>基本目標4：快適で健康に暮らせる生活環境の実現</b>							
微小粒子状物質(PM2.5)の基 準値Bレベル以上の日数	25 日	↘	23 日	0 日	0 日	100% 以上	順調
騒音に係る環境基準の達成率	79 %	↗	85 %	77 %	77.4 %	0%未満	停滞
<b>基本目標5：「環境力」の高い人材の育成</b>							
人材育成に関わる環境講座参 加者数	199 人	↗	400 人	348 人	243 人	21.9%	漸進
外部人材を活用した環境学習 実施校(園)の割合	76.1 %	↗	100 %	62.2 %	62.2 %	0%未満	停滞
環境教育プログラム利用校 (園)の割合	74.4 %	↗	100 %	78.4 %	83.8 %	36.7%	漸進
エコ生活(アクション9)の実 施状況	75.0 %	↗	100 %	83.8 %	82.7 %	30.8%	漸進
<b>基本目標6：パートナーシップが支えるまちの実現</b>							
全区民参加型環境保全キャン ペーン参加者数	25,674 人	↗	31,500 人	16,675人※9	18,388人※9	—	—
エコポリスセンター事業への ボランティア等参加者数	990 人	↗	1,300 人	738 人	622 人	0%未満	停滞
環境登録団体数	27 団体	↗	37 団体	25 団体	23 団体	0%未満	停滞
環境学習講師派遣人数	363 人	↗	500 人	258 人	329 人	0%未満	停滞

※1：「板橋区地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」の令和2年度までの指標のため、実績のみ参考値として掲載した。

※2：「板橋区地球温暖化対策実行計画（区域施策編）2025」の基準年値（平成25年度）

※3：「板橋区地球温暖化対策実行計画（区域施策編）2025」の目標値（令和7年度）

※4：令和2年度（オール東京62市区町村共同事業「特別区のエネルギー消費量」より）

※5：令和3年度（オール東京62市区町村共同事業「特別区の温室効果ガス排出量」より）

- ※6：「板橋区一般廃棄物処理基本計画2025」の基準年値（平成27年度）
- ※7：「板橋区一般廃棄物処理基本計画2025」の目標値（令和7年度）
- ※8：植生被覆率は5年ごとの調査（参考 令和元年度実績は18.1%）
- ※9：キャンペーンの一つである打ち水キャンペーンについては、従来行っていた一堂に集まって行う手法から個人で個別に行う方針としたため、参加者数の把握が困難なことから指標の実績はその他キャンペーン（春・秋の板橋クリーン作戦、ポイ捨て防止キャンペーン）の参加者数を参考値として掲載した。
- ※10：計画最終年度の目標達成に向けた進捗状況。  
基本目標1の「区内温室効果ガス排出量」については、「板橋区地球温暖化対策実行計画（区域施策編）2025」において、基準年値を平成25年度とし目標値を令和7年度の12年間で設定しているため、1年間でおよそ8.33%数値が改善したものを「順調」とし、今回は令和3年度の評価となるため8年目の66.6%を上回れば「順調」とした。基本目標2については、「板橋区一般廃棄物処理基本計画2025」の計画期間が平成30年度から始まる8年間で令和5年度は6年目に当たるため、進捗率は75%以上になるものを「順調」とした。

②活動指標による進行管理

2024（令和5）年度における活動指標の実績と進捗状況は以下のとおりです。なお、「進捗度」については、基準年値に対して実績値が5%以上増加（「めざす方向性」が下

向き矢印の場合は減少）したものを「進展」、5%以上減少（同増加）したものを「後退」、増減が5%未満のものを「横ばい」としました。

	指標名	基準年値 平成26年度	めざす 方向性	実績値 令和4年度	実績値 令和5年度	進捗度
基本目標1	▶環境施策1-①：区民・事業者における省エネ・再エネの推進					
	区内の住宅用太陽光発電システム導入発電容量	—	—	—※1	—※1	—
	区公共施設における緑のカーテン実施施設数	180 施設	↗	162 施設	160 施設	後退
	環境マネジメントシステム新規構築事業所数	14 事業所	↗	6 事業者	2 事業者	後退
	新エネルギー・省エネルギー機器設置補助件数	347 件	↗	—※2	—※2	—
	▶環境施策1-②：建物や交通などインフラの低炭素化の促進					
	「板橋区建築物等における省エネルギー・環境配慮に関する指針」に基づく省エネ建築物受付件数	57 件	↗	36 件	37 件	後退
	街灯の更新	— 基	↗	602 基	1,193 基	—
	区役所で使用している自動車の低公害車率	74 %	↗	70 %	70.8 %	横ばい
	自転車道整備延長距離（累計）	4,670m	↗	5,560m	6,960m	進展
基本目標2	▶環境施策2-①：板橋かたつむり運動の推進					
	ごみ減量に関する出前講座の実施回数	43 回	↗	43 回	44回	横ばい
	資源回収品目数	11 品目	↗	11 品目	12品目	進展
	リサイクル推進員研修会参加者数	433 人	↗	275 人	187人	後退
	小型家電の資源売却量※3	544,570 kg	↗	438,999 kg	431,117 kg	後退
	いたばしエコ・ショップ（ゴールド）認定数	—	—	—※4	—※4	—
	▶環境施策2-②：適正で効率的なごみ収集・処理体制の構築・運用					
	家庭ごみの排出量（可燃・不燃・粗大ごみ）	110,742 t	↘	104,328 t	101,016 t	進展
	事業系ごみの排出量（可燃持ち込みごみ）	29,520 t	↘	30,020 t	28,306 t	進展
	資源の回収量	13,869 t	—	14,079 t	13,768 t	—
高齢者・障がい者などに対する戸別収集件数	783 件	↗	916 件	908 件	進展	
集団回収登録団体数	883 団体	↗	893 団体	896 団体	横ばい	
基本目標3	▶環境施策3-①：板橋らしい良好な緑や水環境の保全・創出					
	緑化指導に基づく緑化箇所数	90 件	↗	87 件	135 件	進展
	緑化指導に基づく緑化面積	59,617 m <sup>2</sup>	↗	10,340 m <sup>2</sup>	11,606 m <sup>2</sup>	後退
	地域がつくる公園制度導入公園数	27 公園	↗	28 公園	27公園	横ばい
	花づくり活動登録グループ数	83グループ	↗	85 グループ	83 グループ	横ばい
	保存樹木指定本数	1,842 本	↗	1,689 本	1,652 本	後退
雨水流出抑制量	4,119 m <sup>3</sup>	↗	10,610 m <sup>3</sup> ※5	10,502 m <sup>3</sup> ※6	進展	

※1：※2の事業終了に伴い評価対象外

※2：令和3年3月末にて事業終了

※3：小型家電の資源売却については、金属価格の変動の影響を受けるため、基準年値・実績値ともに「資源回収量」を掲載した。

※4：平成30年3月末にて事業終了

※5：令和3年度実績値

※6：令和4年度実績値

	指標名	基準年値 平成26年度	めざす 方向性	実績値 令和4年度	実績値 令和5年度	進捗度
基本目標3	▶環境施策3-②：自然とのふれあい促進や自然の恵みの享受					
	グリーンフェスタ参加者数	8,073 人	↗	2,593 人	1,994 人	後退
	緑のガイドツアー参加者数	102 人	↗	84 人	125 人	進展
	熱帯環境植物館来館者数	103,925 人	↗	122,830 人	134,317 人	進展
	エコポリスセンター「環境観察員」登録者数	57 人	↗	64 人	63 人	進展
	区民農園応募者数	3,144 世帯	↗	2,555 世帯	2,476世帯	後退
基本目標4	▶環境施策4-①：大気汚染や騒音などのない生活環境の保全					
	公害苦情件数	251 件	↘	228 件	255 件	横ばい
	公害相談件数	2,182 件	—	927 件	489 件	—
	公害関係法令に基づく改善指導件数	201 件	—	203 件	219 件	—
	「板橋区大気情報公開システム」アクセス件数	458,533 件	↗	347,419 件	0件※7	—
	環境調査に関する情報のツイッター発信数	25 件	↗	125 件	136 件	進展
	▶環境施策4-②：潤いのある景観や美しい街並みの保全					
	景観形成重点地区指定数	4 地区	↗	5 地区	5地区	進展
	「板橋クリーン作戦」参加者数	18,721 人	—	16,459人	17,203人	—
	「板橋クリーン作戦」におけるごみ回収量	6,600 袋	—	6,127袋	5,597袋	—
路上禁煙地区(8地区)内の定点におけるたばこのポイ捨て月平均本数	1,300 本/月※8	↘	589 本/月	647 本/月	進展	
基本目標5	▶環境施策5-①：環境教育の推進、環境保全活動を担う人材の育成					
	環境講座・教室開催回数	677 回	↗	583 回	730 回	進展
	環境講座参加者数(人材育成に関わる講座を除く)	22,898 人	↗	15,261人	16,916 人	後退
	環境学習講師派遣人数	363 人	↗	258 人	329 人	後退
	環境学習施設の入館者数	270,195 人	↗	287,511人	298,269 人	進展
	環境講座受講前後の知識・考え方の変化	63 %※9	↗	86.4 %	83.7 %	進展
	▶環境施策5-②：わかりやすい環境情報の発信					
	区から発信する環境情報の更新回数	356 件	↗	1,523 件	1,279 件	進展
	環境イベント等開催回数	244 回	↗	181 回	196 回	後退
環境イベント等参加者数	96,949 人	↗	22,487 人	26,784 人	後退	
基本目標6	▶環境施策6-①：環境保全活動への参加や協働を進める仕組みづくり					
	ボランティアなどの協力を受入れたエコポリスセンター事業数	183 件	↗	181 件	175 件	横ばい
	自主講座支援回数	2 回	↗	1 回	1 回	後退
	喫煙マナーアップ推進員人数	157 人	↗	79 人	48 人	後退
	集団回収登録団体数【再掲】	883 団体	↗	893 団体	896 団体	横ばい
	地域がつくる公園制度導入公園数【再掲】	27 公園	↗	28 公園	27 公園	横ばい
花づくり活動登録グループ数【再掲】	83グループ	↗	85グループ	83グループ	横ばい	

※7：「板橋区大気情報公開システム」は令和4年度で事業終了

※8：平成27年4月～平成28年1月までの10か月間の平均値 ※9：平成28年度実績値

## ○基本目標ごとの進捗状況概要

### 基本目標1：脱炭素社会の実現

#### (I) 進捗状況の評価

区内の温室効果ガス排出量は、社会全体でコロナ禍からの経済活動の回復により増加となった背景を受け、前年度から増加となっています（2.5%増：環境指標「漸進」）。

2050年温室効果ガス排出量に向けては、目標水準に近い状況であり、今後も区・区民・事業者の一体となった取組を推進していきます。

#### (II) 今後の方向性

区民生活では、「いたばし環境アクションポイント事業」の実施により、省エネ行動の定着が進みつつありますが、事業活動における省エネ行動の定着を今後進める必要があります。

東京都とも連携し、事業者の省エネ行動を支援する施策の活用を進めるとともに、事業者のニーズにマッチした施策を検討していきます。

（関連ページ：P12）

### 基本目標2：循環型社会の実現

#### (I) 進捗状況の評価

ごみの減量が順調に推移しています。区民一人当たりのお一日のごみ排出量は、ごみ減量や食品ロスの削減への区民意識の定着を背景に、2025（令和7）年度の目標値を前倒して達成する状況となりました（環境指標「順調」）。

また、リサイクル率は、資源の回収量が減少しているため、前年度比微減となっており、その向上が課題となっています。（環境指標「漸進」）。

#### (II) 今後の方向性

2024（令和6）年度から区内全域に拡大したプラスチック再資源化事業を推進し、さらなるごみの減量とリサイクル率の向上を図っていきます。

（関連ページ：P27）

### 基本目標3：自然環境と生物多様性の保全

#### (I) 進捗状況の評価

公園率は、前年度から変化はありませんが、都市部の貴重な緑の資源として、広大な河川敷を有する荒川や身近な憩いを与える石神井川などの水の資源とともに、保全に努めています。

2023（令和5）年度は、石神井川の水質（生物化学的酸素要求量）が悪化していますが（環境指標「停滞」）、天候による影響や上流調整池からの放水による影響が由来するものと捉えられます。

#### (II) 今後の方向性

公園の維持を図り、緑の資源の保全を図るとともに、様々な手法により公園率の向上をめざしていきます。

石神井川をはじめとした河川の水質の確保については、引き続き水質調査を通して状況の把握を行うとともに、雨水タンク等の普及を図り、河川にきれいで豊かな地下水が流れ込む環境を高めていきます。

（関連ページ：P39）

### 基本目標4：快適で健康に暮らせる生活環境の実現

#### (I) 進捗状況の評価

板橋区の大気は、良好な状況です。微小粒子状物質（PM2.5）は、基準値Bレベル以上の日数が昨年に続いて0日となっています（環境指標「順調」）。

（自動車）騒音については、環境基準の達成率が前年比で概ね横ばいで推移しており、傾向としては、昼の達成率が高く、夜の達成率が低くなっています（環境指標「停滞」）。

公害に関する相談は減少しており、区民生活において、生活環境が確保されている状況がうかがえます。一方で公害苦情件数は横ばいの状況にあり、内容は大気や水質ではなく騒音に関するものが多くなっている状況です。

## (Ⅱ) 今後の方向性

(自動車)騒音に係る環境基準の達成率については、国や東京都に道路交通騒音対策である自動車単体の対策強化のほか、交通量対策、道路構造の改善などに、区の状況の情報提供を行っていきます。

また、公害に関する苦情・相談に対しては、きめ細やかな対応を行い、必要に応じて公害の発生源に対する指導を行うなど、区民等の生活環境の確保にあたっていきます。

(関連ページ：P52)

**基本目標5：「環境力」の高い人材の育成**

## (Ⅰ) 進捗状況の評価

2023(令和5)年度の「環境力」の高い人づくりに向けては、「板橋エコみらい塾」等の講座や、区立小中学校等における環境教育プログラムの実施を中心とした取組を行いました。

環境教育プログラムは、実施校等が増加しており、定着の状況がうかがえます(環境指標「漸進」)。

人材育成をテーマとした環境講座や外部人材の導入は、横ばいの実績で推移しており、幅広い視点から環境教育に取り組むことが課題となっています(環境指標「停滞」)。

## (Ⅱ) 今後の方向性

人材育成をテーマとした環境講座や環境教育プログラムは、継続した取組を進め、環境教育の基盤を高めていきます。人材育成をテーマとした環境講座等に多くの区民の方に参加いただけるよう、DXの活用をはじめ企画内容や周知等について工夫を凝らしていきます。

外部人材の活用については、実施者による人

材確保だけでなく、エコポリスセンターのネットワークを活用・拡充し、幅広い視点から環境教育に取り組んでいきます。

(関連ページ：P75)

**基本目標6：「パートナーシップ」が支えるまちの実現**

## (Ⅰ) 進捗状況の評価

2023(令和5)年度、区内の環境登録団体数は23団体(前年比2団体減、環境指標「停滞」)でした。団体の中には、区立小中学校と連携し、環境講座に関する出前講座を年間を通して行うなど、地域の環境教育の担い手となっている団体もあります。

また、エコポリスセンターが実施する事業には、区民や学生、環境登録団体など多くのボランティアが参加しています。参加者数は減少となっており(環境指標「停滞」)、その裾野を広げることが課題の一つと考えています。

その他、地域には環境に関する自主的な活動に取り組んでいる団体等があり、環境のまちづくりを支えていただいています。

## (Ⅱ) 今後の方向性

団体や大学等との連携を深め、ボランティアとして関わる契機を広げていくほか、「板橋エコみらい塾」等により指導者養成を図り、環境のまちづくりを支える人材育成にあたっていきます。

また、環境に関する自主的な活動に取り組んでいる団体等の活動は貴重な資源であり、引き続き連携・協働を図っていきます。

(関連ページ：P83)

### 3 板橋区の環境とSDGs

2015（平成27）年9月に国連本部で開催された「国連持続可能な開発サミット」で「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。ここで掲げられた2030（令和12）年を年限とする国際目標が持続可能な開発目標（SDGs）（※P96）です。持続可能な世界

を実現するための17のゴールと、それらを達成するための具体的な169のターゲットから構成されています。

板橋区で取り組む環境関連事業においても、SDGsの目標達成に寄与しており、その一例をご紹介します。



■緑のカーテン

板橋区で全国に先駆けて始まった「緑のカーテン」は、小中学校をはじめとした区内施設で「環境」教育の「生きた教材」として活用されるとともに、冷房使用抑制やヒートアイランド現象の緩和に貢献しています。

（関連P14「緑のカーテン」）



■宅配ボックス助成事業

区では2022（令和4）年度から、感染症対策や温室効果ガス排出量の削減などのため、戸建てや集合住宅を対象に宅配ボックスの設置を行う際の経費の一部を助成しています。



■ウォーターサーバー

区の庁舎・施設に誰もが利用できるウォーターサーバーを設置し、使い捨てのペットボトルを減らす取組を行っています。2024（令和6）年度には、設置施設が区内22か所となり、プラスチック・スマートを推進しています。





■EVバイク等促進事業

EVバイク等を活用した新たなサービスのビジネスモデルを構築し、今後のEVバイク等の普及に関連する諸施策の推進の一助とするため、都などと連携しEVバイクバッテリー交換のためのステーションを設置しています。



■プラスチックの資源回収

2024（令和6）年4月からプラスチックを「資源」として回収しています。

プラスチックを資源化して有効活用することで、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出削減や、最終処分場の延命を図り、環境への負担軽減、ゼロカーボンいたばし2050及びSDGsの理念への貢献を図ります。



いたばし×タバスケ

■いたばし×タバスケ

区は食品ロスになりそうな食品のマッチングをさせるサービスである、タバスケの利用を推進しています。食品店舗は食品を割引価格でウェブサイト上に出品し、消費者は出品された食品をお得に購入することができます。

（関連P30「食品ロス削減に向けた取組」）



板橋区環境基本計画2025でめざす6つの基本目標を達成し、持続可能なまちを実現するためには、これらのうちのどれか一つを追求するのではなく、全てをバランス良く実施していくことが重要です。

本書第2部以降で紹介する取組は、それぞれが単に一つの「環境」問題を克服するためだけのものではなく、「経済」「教育」「社会」などの幅広い分野とも密接に関わり、相乗効果を生み出す可能性を含んでいます。

基本目標実現に向けて、“環境問題を克服する”ことが、同時に“地域の活性化”“環境教育の充実”“協働による社会活動推進”などにもつながっていくことを各主体が認識し、相互に連携しながら取組を推進することが重要となります。

このように、板橋区環境基本計画2025における基本目標実現に向けたアプローチは、SDGsとの親和性が高く、SDGsの目標達成に寄与しているといえます。